

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 01308754
PUBLICATION DATE : 13-12-89

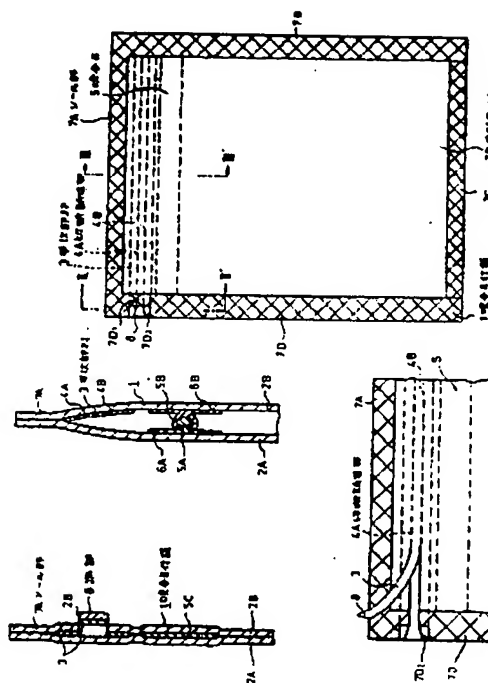
APPLICATION DATE : 03-06-88
APPLICATION NUMBER : 63137766

APPLICANT : IDEMITSU PETROCHEM CO LTD;

INVENTOR : HAYASHI KAORU;

INT.CL. : B65D 33/00 B65D 33/25

TITLE : BAG WITH FASTENER



ABSTRACT : PURPOSE: To easily unseal a pack with hands, by cutting the edge of a belt member, which continues at two cutting guides in the outside of a sealing part in one edge of a bag with a fastener, together with a base film.

CONSTITUTION: A belt member 3 is welded with heat or fixed with an adhesive between a fastener 5 of a bag and a sealing part 7A of an opening side. In the belt member 3, two cutting guides 4A, 4B are formed in parallel with the fastener 5 in the inside of one of the base film 2B. In a sealing part 7D of the other side of the bag 1 with a fastener, a non-sealed part 7D2 is formed in the outside of a sealing part 7D except for a part of 7D1. The edge 8 of the belt member 3 which continues at two cutting guides 4A, 4B is cut off together with the base film 2B. For unseal of the bag 1 with the fastener, the edge 8 and the sealing part 7D2 continued thereto are torn. Next, the belt member 3 is torn together with the base film 2B along two cutting guides 4A, 4B.

COPYRIGHT: (C)1989,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-308754

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成1年(1989)12月13日

B 65 D 33/00
33/25

C-6833-3E
A-6833-3E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 咬合具付袋

⑯ 特 願 昭63-137766

⑰ 出 願 昭63(1988)6月3日

⑱ 発 明 者 林 薫 兵庫県姫路市白浜町甲841番地の3 出光石油化学株式会社内

⑲ 出 願 人 出光石油化学株式会社 東京都千代田区丸の内3丁目1番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 木下 実三 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

咬 合 具 付 袋

2. 特許請求の範囲

咬合具付袋の該咬合具と開口側シール部との間に位置する一方の基材フィルムの内側に該咬合具と平行に、2本の切断誘導部が形成された带状部材を設けると共に、該咬合具付袋の一方の側端側シール部外方における2本の切断誘導部と連続する該带状部材の端部を基材フィルムと一緒に切断したことを特徴とする咬合具付袋。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、咬合具付袋に関し、食品、医薬品等の特に防湿、防酸素が要求される包装分野において利用することができる。

[従来の技術]

袋の閉封部に雄型咬合具と雌型咬合具より成る咬合具(嵌合具)を設けることにより、開閉自在

とした袋(チャック袋)が食品、医薬品、雑貨等の多くの分野で使用されている。このような咬合具付袋は、開封前においては端部が完全に密封されており、使用時に咬合具と開口側シール部分との間を切断し、この後咬合具を開封する。この切断の際、従来は鉋を使ったり、切断すべき部分の側端に形成されたノッチから手で引き裂く方法が採られている。しかし、鉋の使用は面倒であり、且つ鉋がないと切れないという欠点があり、またノッチから引き裂く切断の仕方によれば直線状にきれいに切れないという欠点がある。

そこで、鉋等の道具を使うことなく、手で直線状に引き裂くための手段として、例えば次のような手段が提案されている。

即ち、Ⅰ)引き裂き線としてミシン目を形成する、Ⅱ)袋体を構成するラミネートフィルムの内面側フィルムを肉厚に形成すると共に、この内面側フィルムに咬合具を形成し、且つこの内面側フィルムの咬合具よりも端縁側に切り込み線を形成する(実公昭52-18254号公報参照)。

iii) 特殊な形状の切断線を形成する(実開昭62-13838号公報参照)、iv) 咬合具付テープに基材フィルムに連する凹状の切り込み、又は途中までの切り込みを形成する。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来の手で直線状に引き裂くための手段において、i) によれば、ミシン目のため密封性が低く、輸送時等において何らかの原因で開封してしまう虞れがある。また、ii) によれば、切り込み線の形成された内面側フィルム単体のままではきれいに裂けても、これを基材フィルムに熱溶着した場合、熱の影響で切り込み線が埋まって引き裂きにくくなる虞れがある。iii) によれば、密封性が不十分であり、且つ特殊な切断線を形成するための工程が複雑になるという欠点がある。iv) によれば、きれいな直線状に引き裂きにくいいため、切り口が波打ち状となって外觀が不良となる欠点がある。

本発明は、使用前の密封性が確實であり、且つ

手による切断開封を容易に行うことができる咬合具付袋を提供することを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は、咬合具付袋の咬合具と開口側シール部との間に位置する一方の基材フィルムの内側に咬合具と平行に、2本の切断誘導部が形成された帯状部材を設けると共に、咬合具付袋の一方の側端側シール部外方における2本の切断誘導部と連続する帯状部材の端部を基材フィルムと一緒に切断したことを特徴とする。

帯状部材に形成する切断誘導部は、帯状部材の全厚さに相当する切り込み、途中までの深さの切り込み、ミシン目その他の弱め線を帯状部材に形成することにより設けることができる。

〔作用〕

咬合具付袋の一方の側端側シール部外方における2本の切断誘導部と連続する帯状部材の端部を基材フィルムと一緒に切断すると、その端部は袋

から遊離した状態となっており、且つその端部と連続する帯状部材は袋の側端部においてシール状態が確実に保たれている。そして、この端部を指で掴み、袋から引き離すように力を入れることにより、先ずこの端部と連続したシール部を裂き、引き続き2本の切断誘導部に沿って切断誘導部間の帯状部材を基材フィルムと共に引き裂いて袋を開封する。この開封後は、咬合具を開閉することにより、袋の開封及び封止を任意に行うことができる。

〔実施例〕

第1図～第4図を参照して本発明の第1実施例を説明する。

本咬合具付袋1は、2枚の基材フィルム2A、2Bを重ね合わせて構成する。一方の基材フィルム2Aの開口側近傍には雄型咬合具5Aが形成されたテープ6Aを、また他方の基材フィルム2Bの開口側近傍には雌型咬合具5Bが形成されたテープ6Bを両咬合具5A、5B同士が噛み合わせ

れるように重ね合わせた状態で溶着、接着剤による接着等により固着する。これらの咬合具付基材フィルム2A、2Bの四方の側端には、ヒートシール、超音波シール等によりそれぞれシール部7A～7Dを形成する。

このように構成した咬合具5(5A、5B)付きの袋において、咬合具5と開口側シール部7Aとの間に位置する一方の基材フィルム2Bの内側に咬合具5と平行に、2本の切断誘導部4A、4Bが形成された帯状部材3を溶着又は接着剤を使用して固着する。そして、咬合具付袋1の一方の側端側シール部7Dにおいて、帯状部材3の端部近傍には、シール部7Dを一部7D₁、残してその外方に非シール部7D₂を形成し、2本の切断誘導部4A、4Bと連続する帯状部材3の端部8を基材フィルム2Bと一緒に切断する。

即ち、第1図及び第2図に示すように、一方の側端側シール部7Dにおいてはシール状態が保たれたまま、帯状部材3の2本の切断誘導部4A、4B間の端部8は、袋1とは遊離した状態となっ

ている。

なお、第2図における5Cは、咬合具5の圧潰された部分である。

この帯状部材3に形成する2本の切断誘導部4A、4Bは、帯状部材3に全厚さ分に相当する切り込み、途中までの深さの切り込み、ミシン目、その他の弱め線等の中のいずれかを、使用する材質に応じて任意に形成することにより設ける。2本の切断誘導部4A、4B間の間隔は任意であるが、少なくとも端部8から帯状部材3を引き裂く際、途中で切れない充分な幅を持っていることが必要である。

帯状部材3の材質としては、アルミニウム、ポリカーボネイト、ポリエステル、ポリプロピレン等を使用することができる。これらの中でもアルミニウムを使用した場合には、熱溶着の際、切断誘導部4A、4Bの再融着が発生せず、また剛性が高く、且つ良好に切断を開始させることができるという利点が見られる。

なお、帯状部材3の材料がアルミニウムの場合、

基材フィルム2A、2Bとの接着性を改善するために、アルミニウム箔としてアンカーコート処理を施したもの、基材フィルム2A、2Bとしてアルミニウム箔との接着性が良好なアイオノマー樹脂、無水マレイン酸等の不飽和カルボン酸又はその誘導体変性ポリオレフィン樹脂等を添加した熱可塑性樹脂の使用が好ましい。また、この場合、これら変性ポリオレフィン樹脂を内層とした多層フィルムを使用することもできる。

咬合具5付基材フィルム2A、2Bの作製法としては、上述のように基材フィルム2A、2Bを作製した後、咬合具5A、5Bを溶着により取り付けて作製しても良いが、共押出しにより基材フィルム2A、2Bと一体に作製しても良い。

使用する基材フィルム2A、2Bとしては、樹脂フィルム、(共押出し、ラミネートによる)樹脂多層フィルム、他基材(金属箔、セロハン、紙、不織布等)とのラミネートフィルム等を使用することができる。

なお、内容物の充填は袋1の下部側から行うた

め、下部のシール部7Cは最後に形成する。

内容物の入った本咬合具付袋1の切断開封を手で行う際、第4図に示すように、帯状部材3の袋1から遊離した端部8を指で握り、袋1から引き離すように力を入れることにより、先ずこの端部8と連続したシール部7Dを裂き、引き続き2本の切断誘導部4A、4Bに沿って切断誘導部間4A、4Bの帯状部材3を基材フィルム2Bと共に引き裂いて袋1を開封する。

本実施例に係る咬合具付袋1によれば、袋1の周囲がシール部7A、7B、7C、7D、7Dにより封止されているため、密封性が完全に保持されている。また、帯状部材3の端部8を引くだけで、手による切断開封を容易に行うことができる。その開封口が切断誘導部4A、4Bにより直線状となっているので、外観が良好であり、切断箇所が袋1の片面だけであるため、開封後においても袋全体の形状を維持することができる。

第5図に本発明の第2実施例を示す。本実施例においては、咬合具付袋1の一方の側端側シール

部7Dにおいて、帯状部材3の端部近傍のシール部7D内にシール部の一部7D₁を残して例えば四角形の非シール部7D₂を形成し、2本の切断誘導部4A、4Bと連続する帯状部材3の端部8を基材フィルム2Bと一緒に切断する。これにより、四角形の非シール部7D₂において、帯状部材3を手で引き裂くための2本の切断誘導部4A、4Bと連続する帯状部材3の端部8を形成することができる。

第6図に本発明の第3実施例を示す。本実施例においては、咬合具付袋1の一方の側端側に他のシール部7A～7Cと連続するシール部7D及びこのシール部7Dと一体に帯状の非シール部7D₃を形成し、2本の切断誘導部4A、4Bと連続する帯状部材3の端部8を基材フィルム2Bと一緒に切断する。これにより、帯状の非シール部7D₃において、帯状部材3を手で引き裂くための2本の切断誘導部4A、4Bと連続する帯状部材3の端部8を形成することができる。

上記実施例においては、2本の切断誘導部4A、

4Bが形成された帯状部材3を基材フィルム2A、2Bの一方に設けたものを使用したか、両方に設けたものを使用することもできる。

〔発明の効果〕

本発明によれば、密封性が完全に保持され、また帯状部材の端部を引くだけで、手による切断開封を容易に行うことができる咬合具付袋を得ることができる。

4. 図面の簡単な説明

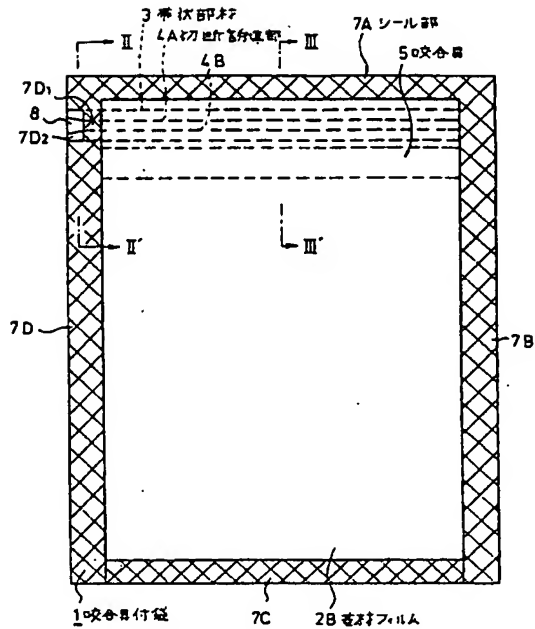
第1図は第1実施例に係る咬合具付袋の平面図、第2図は第1図のII-II'線断面図、第3図は第1図のIII-III'線断面図、第4図は切断開封の状態を示す斜視図、第5図は第2実施例の平面図、第6図は第3実施例の平面図である。

1…咬合具付袋、2A、2B…基材フィルム、3…帯状部材、4A、4B…切断誘導部、5…咬合具、7A～7D…シール部、8…端部。

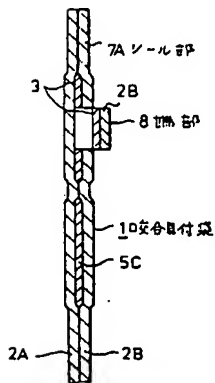
出願人 出光石油化学株式会社

代理人 弁理士 木下 實三（ほか2名）

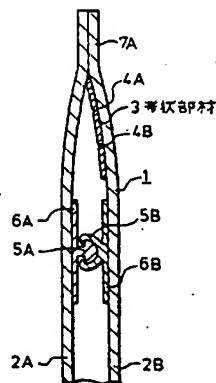
第1図



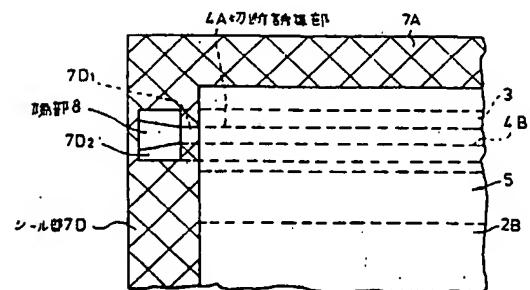
第2図



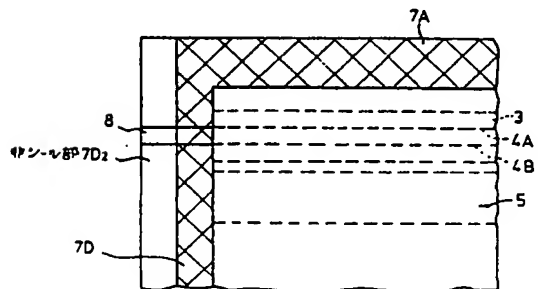
第3図



第5図



第6図



第4図

